

新東工業の事業領域の広がり

事業領域「素材に形をいのちを」の再定義

当社は「素材に形をいのちを」という考えのもと発展してきました。1934年の創業以来、鑄造設備メーカーとして技術とノウハウを蓄積し、「素材に形を与え、いのちを吹き込む」という思いは現在も受け継がれています。

これまで、グローバルに広がる“鉄の裾野”を支える市場を中心に事業を展開してきました。鉄需要の用途は地域によって異なり、例えば、日本では自動車分野、ヨーロッパではパイプライン関連、南アメリカでは鉱山機械分野など、地域ごとの市場ニーズに応じた製品・サービスを提供してきました。一方で、社会や産業構造の変化に伴い、世の中では高機能化・多材質化などが進展しており、当社もこうした市場ニーズに対応しながら、セラミックスや鉄鋼以外の金属など多様な素材分野へ事業領域を拡大しています。

その歩みの中で、祖業を軸に事業を多角化し、現在では「素材づくり領域」「形づくり領域」「表面づくり領域」の「3つのづくり」として再定義するとともに、それらを支える基盤として「5つの技術領域」を位置付けています。既存の技術を基盤に、新たな素材・市場へ展開することで、持続的な成長を実現するとともに、社会課題の解決に貢献していきます。



鉄の裾野を起点に事業領域を拡大し、成長を加速



新東工業の事業領域「素材に形をいのちを」を動画で紹介しています。
事業紹介 <https://www.sinto.co.jp/company/jigyō/>



数字で見る新東工業

加速する価値創造

2026年3月31日時点

新東工業は、1934年の創業以来、鑄造技術を基盤に、表面処理や環境関連分野へと事業を多角化し、お客さまとの信頼を大切にしながら世界のモノづくりを支えてきました。これからも培ってきた強みを磨き上げながら、持続的な成長と新たな価値創造に挑戦していきます。

お客さまに選ばれ続ける基盤

リピート購入されたお客さまの割合

56.2%



装置をご購入いただいたお客さまに対して、修理・点検・予防保全などのアフターサービスの充実に取り組んできました。中期経営計画では、部品や消耗材などをリピート購入いただいたお客さまの割合を「部品カバー率」として指標化し、お客さまからの信頼度の向上を目指しています。

アフターサービス売上比率

57.8%



お客さまとの継続的な関係は、安定した収益構造につながっています。修理・点検・予防保全などのサービスを通じて、お客さまの装置の安定稼働を支えています。

また、全従業員約4,800名のうち約700名(約14.4%)がアフターサービスに従事し、世界共通の評価基準に基づくスキル管理のもと、グローバルで高水準なサービスの提供に取り組んでいます。

グローバル拠点数

23ヶ国・地域に
59拠点



1968年に海外法人第一号の拠点を台湾に設立して以来、グローバル展開を強化しています。“お客さまの設備を止めない”をモットーに、現地のお客さまを現地で支える体制を整備し、安定稼働をサポートしています。

競争力の源泉

表面処理加工※

5.5m 幅の造船用
鋼板から
1mm 以下の積層セラミック
コンデンサまで



当社の表面処理技術は、幅広い大きさ、および多様な材質の製品を加工することができます。2024年には欧州の表面処理関連企業2社を子会社化し、ますます幅広い産業での活躍が期待されます。

※金属球を投射して製品表面を加工する「プラスト工法」による加工技術

鑄造設備の グローバル販売実績

78ヶ国・地域において

累計1.2万台以上を販売



ローカルメーカーが多い業界において、世界各国に広く設備を提供し、導入後の保守・サービス体制も含めたグローバル対応力を有する点が、当社の競争優位性を示しています。

海外拠点における経営者の現地化比率

84.2%



その地域に根差した経営を行い、各地でお客さまに密着した対応を展開するため、日々の経営は現地に任せています。統一された経営方針のもと、グローバルでの経営体制の強化に努めています。

目次

イントロダクション

- 02 新東工業の事業領域の広がり
- 04 数字で見る新東工業
- 05 目次
- 06 トップメッセージ
- 10 海外グループ会社の成長戦略
- 12 新東工業の理念
- 14 歩み
- 16 事業概況

Section 1 価値創造

- 18 価値創造プロセス
- 20 マテリアリティ
- 24 中期経営計画
- 28 財務戦略

Section 2 成長戦略

- 30 戦略① 事業領域「素材に形をいのちを」
- 31 3つのつくり
- 37 5つの技術領域
- 40 アフターサービス
- 41 研究開発・知的財産戦略

- 42 グローバル事業基盤
- 44 戦略② 多様な人財が活躍できる組織づくり
- 48 戦略③ 取締役会によるガバナンス体制の強化
社外取締役座談会
- 51 コーポレート・ガバナンス
- 53 取締役会実効性評価
- 54 リスクマネジメント
- 55 コンプライアンス

Section 3 サステナビリティ戦略

- 56 サステナビリティ経営
- 59 環境に対する取り組み
- 64 人財戦略
- 68 ステークホルダー

Section 4 ガバナンス

- 72 役員一覧
- 75 取締役の構成と運営

Section 5 コーポレートデータ

- 78 11か年データ
- 80 ESG 5か年データ
- 82 会社情報・株式情報

■ 編集方針

本報告書は、株主・投資家の皆さまをはじめとした全てのステークホルダーの皆さまに向けて、当社の中長期的な価値創造に向けた取り組みについて理解を深めていただくことを目的として発行しています。本報告書の編集にあたっては、IFRS財団の「国際統合報告フレームワーク」、経済産業省の「価値協創ガイダンス」などを参考にしています。



■ 表紙のご説明

力強くしなやかな姿が印象的な本作品は、当社の成長性やたくましさ象徴するものとして、表紙に採用しました。当社では、障がいのある社員が活躍する「新東ファーム」を開園し、誰もが力を発揮できる環境づくりに取り組んでいます。秋本慎ノ介さんはその一員として、業務に取り組む傍ら、絵画制作や競泳にも挑戦しています。当社の多様な人財が活躍できる環境づくりについては、P44をご参照ください。



作品名 アムールトラ
作者 Shin (秋本慎ノ介さん)

■ 将来見通しに関する注意事項

本報告書には、新東工業株式会社が現時点で入手可能な情報を基に将来の見通しや計画が記述されています。記述には潜在的なリスクや不確実性が含まれており、将来における実際の業績、事業展開と異なる可能性があります。したがって、将来の見通しや計画に関する記述は、正確であると保証されたものではありません。

■ 対象期間

2025年4月1日～2026年3月31日
一部、上記期間以外の情報も含んでいます。

■ 対象範囲

新東工業グループ
(新東工業株式会社 および 国内外のグループ会社)

■ 発行月

2026年6月

■ WEBサイト

IR情報やサステナビリティ情報などを紹介しています。



株主・投資家の皆様へ
<https://www.sinto.co.jp/ir/>



TOP MESSAGE

トップメッセージ

次なる世紀へ、 新たな成長曲線を描く

“鉄の裾野”を広げ
新たな事業領域を開拓

代表取締役
社長執行役員

永井 淳



Elastikos社の減損について — 経営としての反省と決断

まず、株主・投資家の皆さまをはじめとするステークホルダーの方々には、2024年度に買収したフランス・Elastikos社において、のれんおよび固定資産の減損損失を一括計上することになり、ご心配をおかけしたことを心よりお詫び申し上げます。

当社がElastikos社を買収した目的は、大きく二つありました。一つ目は、表面処理事業の拡大を通じたシナジー効果の創出です。当社の既存事業と組み合わせることで、新規顧客の獲得を進めながら、事業規模の拡大と収益性向上を図る狙いがありました。しかし実際には、景気停滞や競争激化の影響を受け、業績は当初計画の水準には至りませんでした。二つ目は、資本コストの低減を意識

し、負債を活用しながら成長投資を進め、企業価値の最大化を目指すことでした。しかし、事業環境の変化や収益状況を踏まえ、今後の成長戦略をより着実に推進していくため、今回、減損損失を計上しました。

今回の減損損失の計上は、ここ数年の収益の伸び悩みに終止符を打ち、新たな成長戦略を早期に立ち上げていくための決断です。一方で、当初想定より早期に将来負担を整理したことから、成長戦略を支える施策の展開が十分に追いついていないという課題も認識しています。当社はこの意思決定を重要な転機として、今後の反攻攻勢につなげてまいります。

正解のない時代に直面する経営環境の変化

現在、当社を取り巻く外部環境は、これまでの成功体験や右肩上がりの成長モデルが通用しない「正解のない時代」へと突入しています。先の見通せないロシアのウクライナ侵攻および中東情勢など、地政学リスクに起因した資源・輸送コストの高騰に加え、各国の関税政策に伴う物価高と、経済の混乱に対する緊張感は、かつてないほど高まりを見せています。

主要顧客である自動車産業に目を向ければ、EVシフトやスマート化を背景に、IT企業の参入という業界の垣根を越えた競争が激化し、大規模な再編が加速しています。こうした大きなうねりの中であって、当社の業績推移を正視すると、そこには数年来続く成長の伸び悩みという厳然たる事実が突きつけられます。この変化の激しい時代において、現状維持にとどまり続けることは、実質的な後退を意味します。

▶ 各国の事業環境認識

ヨーロッパ

景気減速や設備稼働率の低下を背景に、自動車・鉄鋼関連需要は低調に推移しています。エネルギーコストや人件費の上昇を受け、設備投資は慎重な姿勢が続いており、市場環境の不透明感も高まっています。一方で、再生可能エネルギーやインフラ分野では政策支援を背景とした投資が進んでおり、足元では厳しい状況が続くものの、市場は底打ちし、中長期的には復興需要やエネルギー政策に関連した需要拡大も期待されています。

中国

景気減速の影響から慎重な動きが続き、生産余力を背景とした価格競争の圧力も見られます。一方、底堅い需要を背景に、市場競争力強化のための投資需要は継続しています。特に、EV、再生可能エネルギー、一般機械、造船といった重点分野では需要が堅調に推移しており、鋳造および表面処理事業では一定した需要が見込まれます。

北アメリカ

設備投資は全体として慎重姿勢が続いているものの、航空・宇宙、防衛分野を中心に堅調な需要が継続しています。また、自動化・省人化に向けた投資ニーズも底堅く、事業環境を下支えしています。一方で、関税政策やコスト動向、人材確保などが引き続き課題となっています。



日本

日本経済は緩やかな回復基調にある一方、原材料費や人件費などのコスト上昇が事業環境に影響を及ぼしています。設備投資は選別的ではあるものの、GX、DXへの対応や生産の高度化、省人化・自動化、安心・安全への対応を目的とした需要は堅調に推移しています。政府が掲げる17の注力分野に象徴されるように、先端技術、医療、エネルギー関連など成長分野への転換が進んでいます。

インド

農業機械、給排水(ポンプ)分野に加え、インフラ分野向けの投資が活発です。内需主導の経済成長と経済政策を背景に、設備投資意欲は高く、製造業全体として、力強い成長を続けています。

アジア

景況感は総じて低調に推移しており、中国メーカーの進出や価格競争の激化により厳しい事業環境が続いており、価格対応力の強化が求められています。

南アメリカ

鉱山機械関連の需要は底堅いものの、コスト上昇や金利水準、アメリカの関税政策の影響を受け、設備投資は慎重な状況が続いています。一方で、自動化や既存設備の更新需要は堅調です。

事業領域の拡大で未来の社会基盤を創り出す

こうした経営環境の変化、そして今回の減損という決断を経て、当社は改めて業績向上を実現しなければならないという強い覚悟を持っています。

当社の祖業は鋳物づくりであり、創業以来、“鉄の裾野”に関わる多様な産業分野を支える企業へと発展してきました。今後は、この鉄の裾野を軸に、当社の技術の可能性を最大限に引き出しながら、既存事業の領域を国内外でさらに広げるとともに、成長が見込まれる分野や新規事業への展開を強化していきます。

当社の事業領域「素材に形をいのちを」において展開する3つのつくり（素材づくり領域／形づくり領域／表面づくり領域）は、いま大きな進化の時を迎えています。鉄の裾野はモノづくりの基盤であり、市場規模が大きく、安定した需要が見込める産業です。一方で、今後は鉄にとどまらず、セラミックスやガラスなどの新たな素材や、廃棄物にも対象を拡大し、「3つのつくり」で培った技術を活かした事業展開を進めていきます。その際にはパートナーとの「仲間づくり」を通じて、新たな価値創造を実現していきます。

「形づくり領域」では、3Dプリンティング技術の活用により、対応可能な材質を拡充するとともに、形状の自由度を高めることで、新たな用途・市場への展開を図っています。中でも注力しているセラミック事業は、今後の需要拡大が期待される分野であり、2025年11月にはドイツ・^{ボッシュ}BOSCH社の一部門を取得し、医療・半導体・電子部品分野を中心とした部品事業を強化しました。さらに、2026年には日本・^{シントワ・アドバンスド・セラミックス}Sinto Advanced Ceramics」として社名を統一するとともに新拠点の整備を進め、連携を強化。各拠点が有する成形技術、積層造形技術、設計・材料技術を融合することで、グローバルでの技術連携と競争力向上を一層推進していきます。

また、鋳物の不純物落としから派生した表面処理は、現在では多様な工法へと広がり、表面に新たな機能や付加価値を与える「表面づくり領域」へと進化しています。従来から取り組んできたピーニング

技術による表面改質は、部材強度や耐久性を向上させる技術として、安全性と信頼性が厳格に求められる航空・宇宙分野において、部材寿命の延伸に貢献しています。今後は、こうした技術の活用領域を広げながら、グローバルでの展開をさらに加速していきます。さらに、部材の性能や価値そのものを飛躍的に高める技術へと発展させ、アルミと樹脂など異なる素材を接着剤を使わず接合する異種材料接合技術は、部品点数の劇的な削減と軽量化に寄与する革新的な技術で、EV分野での活用拡大を進めています。

現在、「表面づくり領域」の新たな柱として注力しているのがレーザー加工技術です。薬剤や研磨材などの消耗品を使わず廃棄物も出さないこの環境配慮型の技術を、高出力・高速加工に強みを持つカナダ・^{レーザーラックス}LASERAX社との連携強化を通じ、医療や半導体といった成長著しい分野へスピードを持って展開してまいります。

そして、未来のデジタル社会を支える土台となるのが「素材づくり領域」です。私たちが開発した極微細な金属軟磁性粉末は、電子部品のさらなる多層化や高密度化を可能にします。生成AIの爆発的普及や5G・6G通信の進展により、スマートフォンの小型化・省電力化への要求が極限まで高まる中、当社の素材こそが次世代のデジタルインフラの進化を牽引する必要不可欠なピースになると自負しています。

このように、既存の「鉄」という枠を超え、新素材へと鉄の裾野を広げ続けることで、私たちは世界中のお客さまに驚きと感動を届ける価値の創造に邁進いたします。

株主還元については、継続して安定配当を実施するとともに、さらなる資本コスト低減を図ってまいります。一方で自己資本比率50%を目安に財務の健全性と柔軟性を保ちながら、資本効率の強化に向け、政策保有株式については保有目的を改めて精査し、純資産比率15%未満を目標に縮減を進めるとともに、有利子負債の適切な管理・活用を行い、資本効率の向上を図ります。

政策保有株式の純資産比率は、2025年度末は21.3%となりました。今後は、保有目的をあたためて精査し、2029年度末には、純資産比率15%未満を目標に縮減を進めます。縮減により得られたキャッシュは、成長投資に振り向けます。

その一環として、2026年5月には、3Dプリンタによる金属部品およびセラミック部品の量産工場建設計画を公表しました。データセンターや半導体分野向けの高付加価値商品の生産を予定しており、総



ボッシュ・アドバンスド・セラミックスと Bosch Advanced Ceramics との調印式

投資額は約100億円を見込んでいます。

これらの取り組みを通じて、利益の拡大による持続的成長投資

と株主還元のバランスをとることにより、当社の企業価値を高め、PBR1倍以上を目指していきます。

多様な個性が輝く組織づくり

こうした「鉄の裾野」の展開と、新分野への挑戦を真に支えているのは、決して設備そのものではありません。それらを使いこなし、価値へと昇華させる「人」こそが、持続的成長の原動力です。だからこそ当社の経営の根幹には、社員の力を最大限に生かす「活人主義」があるのです。

この理念を具現化するため、多様な個性が輝く組織づくりを行っています。当社は、シニア向け制度の改革に加えて、女性の活躍の推進に取り組んでいます。2024年度には「BIP (Business Improvement Project) 推進室」を各事業所内に設置しました。BIP推進室では、現場主導による情報改善や業務効率化を進めるだけでなく、社員一人ひとりが自身のキャリアや強みを主体的に見つめ直し、挑戦できる風土づくりを推進しています。さらに2025年度には、「DE&I (ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン) 推進プログラム」を発足しました。女性社員を中心に社員一人ひとりのキャリア形成支援や意識改革を進めるとともに、多様な価値観や個性を尊重しながら、誰もが自分らしく能力を発揮し、挑戦し続けられる組織風土の醸成を目指しています。実際に参加した社員からは、「同じ

モノづくり企業として、社会と産業に貢献し続ける

当社は単なる産業設備メーカーではありません。モノづくりを支えるモノづくり企業として、様々な産業分野に貢献してきました。鋳造・表面処理・素材技術は、自動車にとどまらず、医療、造船、産業機械、さらには次世代のデジタルインフラを支える領域へと広がっています。各事業セグメントがそれぞれの現場で価値を発揮し、日本のみならず世界の産業基盤を支えていることは、当社の揺るぎない強みです。

そして今、最も情熱を注いでいるのが「モノづくりの心の継承」です。当社が提供しているテレビ番組（ミニ番組）「未来へつづけ^{チカラ}！技」では、技能五輪に挑む若き技能者たちを紹介しています。彼らが精度にこだ

志を持った仲間と触れ合うことで大きな刺激を受け、自分らしいキャリアを見つめ直すきっかけになった」「部署を超えたつながりができ、困った時に相談できる仲間が増えた」といった声も上がっており、社員同士の新たな連携や意識変化にもつながっています。これらの取り組みが評価され、2026年4月、愛知県が実施する女性活躍推進企業認証制度「あいち女性輝きカンパニー」の認証を取得しました。

こうした一連の取り組みの結実として2026年4月に始動した「サーフェスクリエーションチーム」には、大きな期待を寄せています。女性3名で構成される同チームは、当社の高度な表面処理技術を「ライフスタイル」という身近な視点から再定義し、BtoC市場という未踏の領域へ踏み出す挑戦を担っています。その象徴的な試みが、「パーソナライズされた感動」の提供です。大切な人の名前や記念のメッセージを、当社の精密加工で刻印する。これまで産業を支えてきた表面づくりの技術が、一人ひとりの想いに寄り添い、世界に一つだけの価値を生み出す。この価値転換こそが組織の硬直化を打ち破り、新たな風を吹き込んでくれると信じています。

わり、技を磨き続ける真剣な眼差しを見るたび、私自身の胸も熱くなります。それは当社の思い「モノづくりの心を大切に、社会に貢献したい」そのものなのです。

モノづくりとは、単なる作業の積み重ねではありません。素材と対話し、試行錯誤の末に未だ見ぬ価値を生み出す「創造のよろこび」がそこにはあります。番組を通じて、その尊さを広く社会に発信し続けることは、技術の会社である私たちの使命であり、誇りです。多様な個性がそれぞれの「技」を磨き、それらが重なり合うことで、これまでの限界を突き破る真のイノベーションが生まれると確信しています。

技術と人財を原動力に未知なる道を切り拓く

中期経営計画『「共創」～新しい価値を求めて～』地球とともに、仲間とともに、の2年目においては、EBITDAは132億円で推移し、売上高比率は最終年度目標である8%以上に対して7.5%となるなど、目標達成に向けて着実に稼ぐ力が向上していると感じております。

最終年度を迎えるにあたり、この1年を単なる計画の締めくりではなく、次なる飛躍への起点としなければなりません。今回の減損という試練、そして膠着状態からの脱却という挑戦は、私たちがより強く、より高収益な企業へと進化するために避けては通れない「産みの苦しみ」であったと、2034年の100周

年に向けた歩みの中で必ず証明していきます。

当社には、世界に誇る技術（心）があり、それを支える最高の仲間（人財）がそろっています。これからは皆さまとともに、誰もが豊かさを実感できる未来を実現するため「共創」の歩みを進めることをお約束いたします。



DE&I推進プログラム 活動報告会



第31回海外社長会 (SIC 2025)

海外グループ会社の成長戦略



 France


Ramesh Babu Krishnan

Managing Executive Officer of Sintokogio, Ltd.
CEO of Elastikos (France) S.A.S.

構造変化を乗り越え、収益基盤と競争力を進化

地政学的な不安定化や戦争、世界秩序の再編は、産業分野および関連するグローバル市場に大きな変動をもたらしています。従来の需要は回復に時間を要し、コロナ禍前の水準に戻るまでにはなお時間がかかる見通しです。こうした環境下、当社は2025年初頭よりコスト管理と事業の集約化を進め、収益基盤の強化を図ってきました。さらに、高機能製品や交換部品、アフターサービスの拡充により事業機会の拡大を推進しています。また、ヨーロッパ・アメリカ・インドを中心にエネルギーおよび防衛分野への展開を加速し、ショットピーニング技術や7つの中核拠点を核としたデジタル化の推進により競争力を高めています。これら上流・下流双方の取り組みにより、危機を乗り越え、これまで以上に強固な事業基盤の確立を目指していきます。



 United States

Michael Halsband

Executive Officer of Sintokogio, Ltd.
CEO of Sinto America, Inc.

事業モデルの転換と顧客価値の進化

アメリカ経済はソフトランディングの局面にあり、成長は緩やかで、インフレと金利は依然として高水準にあります。企業の投資は能力増強よりも生産性向上に重点が置かれ、エネルギー、航空・宇宙、防衛、医療分野が需要を牽引しています。一方で、関税や人件費の上昇、人材不足、サプライチェーンの不安定さが引き続き課題となっています。鋳造業界はインフラやエネルギー向けの需要に支えられ安定していますが、同様の課題を背景に統合や自動化、専門化が進展しています。こうした中、当社は設備販売中心から転換し、ライフサイクル全体で価値を提供するサービス型ビジネスを強化しています。アフターサービスや設備最適化、自動化支援を通じて顧客価値を高めるとともに、セラミック3Dプリンティングの開発を進め、高付加価値な製造領域への展開を加速し、持続的な成長を目指していきます。



 Germany

Andreas Klein

Executive Officer of Sintokogio, Ltd.
President & Managing Director of Heinrich Wagner Sinto Maschinenfabrik GmbH

グローバル連携による事業機会の創出

ヨーロッパの鋳造市場は依然として厳しい状況が続いています。ウクライナ情勢の長期化や中東地域の緊張によりエネルギーコストが高騰し、お客さまの事業環境にも大きな影響を与えています。一方で、一定の設備投資は継続しており、自動化やIoT関連製品へのニーズが高まっています。こうした中、日本・アメリカ・ドイツのグループ各社による国際的なIoT標準化の取り組みは、その重要性を一層増しています。また、従来ヨーロッパでは主流でなかった模型無枠造型ラインへの関心も高まっています。2024年度にはドイツにおいてグループ各社が連携してFBMXラインを導入し、技術を結集することで競争力ある提案を実現しました。こうした取り組みは次なる案件にもつながっており、「One Global Sinto」としての総合力を発揮することで、厳しい環境下でも新たな事業機会の創出と企業価値の向上を目指していきます。



 Brazil

Julius Cesar do Nascimento

Executive Officer of Sintokogio, Ltd.
President of Sinto Brasil Produtos Limitada

不確実性の中で機会を捉え、持続的成長へ

ブラジルは依然として、高金利環境や政治的分断の影響を受け、投資活動が抑制されるなど不確実性の高い市場環境にあります。一方で、中長期的な成長ポテンシャルは大きく、将来の発展を見据える企業にとっては多様な機会が存在しています。こうした中、当社は近年、事業機会を的確に捉え、着実な成長と事業規模の拡大を実現してきました。これは、現地市場への深い理解と柔軟な対応力、そして強いコミットメントの成果です。今後も国内外の環境変化に的確に対応しながら、技術革新と事業拡大を推進し、持続的成長の実現を目指します。併せて、ステークホルダーの皆さまの社会・経済的価値の向上に貢献し、より強固で安定した未来の構築に寄与していきます。

新東工業の理念

経営理念

HEART

Human Enrichment & Achievement through Reliable Technology

「信頼される技術を通して人間としての豊かさと成果を」

Mission Statement

モノづくりの新たな価値を創造し、
世界の仲間たちと感動の共創を実現します

長期ビジョン

世界の仲間たちと感動の共創

VISION 01 モノづくりの誇りと自信を共有するグローバル企業集団

VISION 02 生きがい、働きがいを共有する人間集団

行動指針(社是)

1962年10月、様々な困難を乗り越え、鑄造機械製造に企業生命を賭けて歩んできた不屈の精神と気風を明文化するため、次の3カ条からなる社是を制定しました。

01 われわれは、つねに堅実にして進取的な態度で事にあたろう

02 われわれは、つねに相互の信頼を深め果敢実行を旨としよう

03 われわれは、つねに至誠をもって社会に奉仕しよう



経営理念に対する思い

当社グループの経営理念「HEART (Human Enrichment & Achievement through Reliable Technology)」には、単に優れた製品や技術を提供するだけでなく、信頼される技術を通して、社会とともに持続的な成果を生み出していきたいという強い思いが込められています。

HEARTは、創業以来大切にしている価値観を言語化したものであり、世界中のグループ会社の仲間が同じ志を持ち、日々の判断や行動の拠り所とする共通の精神です。

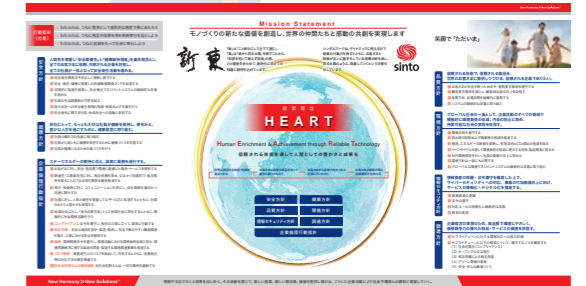
当社グループは、この理念のもとでステークホルダーと誠実に向き合い、技術革新と現場力を磨き続けることで社会的価値と経済的価値の両立を図っています。

そして、お客さまから心からの「ありがとう」をいただけることを目指し、これからも長期的視点に立った価値創造に取り組んでいきます。

経営理念の浸透

Sinto Beliefs リフレットの配布

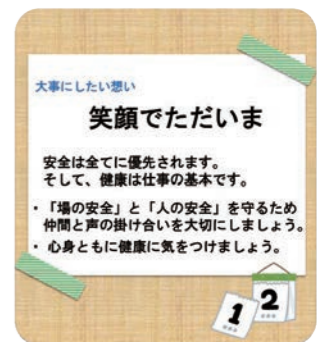
当社グループの経営方針をまとめた「Sinto Beliefs リフレット」を全世界の社員に配布し、経営理念の浸透を推進しています。「モノづくりの心を大切に、社会に貢献したい」という思いのもと、「モノづくりの新たな価値を創造し、世界の仲間たちと感動の共創を実現」することを目指しています。この中にある「仲間」とは、単なる友人ではなく、同じ志を持つ友人のことを意味し、お客さまをはじめとした全てのステークホルダーを指しています。一人ひとりが技能と知識を磨き、お客さまとともに課題解決に取り組むことで信頼関係を築き、『One Global Sinto』で心をひとつに、常に新しい提案、新しい解決策を提供し続けていくことを行動の指針としています。



Sinto Beliefs リフレット

社内ポータルサイトを活用した経営思想の発信

経営理念の根底にある経営思想への理解促進を目的として、社内ポータルサイトを活用した情報発信を行っています。社員が日常業務の中で経営思想や価値観に継続的に触れる機会を創出する取り組みの一環として、トップページに「1日・1フレーズ」の形式で、経営理念や行動指針に関連するキーワードを日替わりで掲載しています。こうした継続的な発信を通じて、経営思想への理解と共感を深めるとともに、理念の定着および日々の行動への反映を促進しています。



キーワードの掲載例

経営理念に基づく行動事例

営業 お客さま・仲間との伴走

私たちは、お客さまの現場に寄り添い続ける「伴走」の姿勢を大切にしています。設備導入後も定期的に現場を訪問し、運転データや作業の方の声をともに、潜在課題を洗い出し、改善ソリューションとして具体的な提案へとつなげています。こうした継続的な対話と提案活動により、共創のパートナーとしての信頼を築き、お客さまからいただく「ありがとう」の声を励みに、ともに持続的な成果を生み出しています。また、国内外の代理店ネットワークを単なる販売チャネルではなく、顧客価値をともに創出する重要なパートナーと位置付けています。国内においては、ショット販売店と代理店で構成される「新東会」を組織し、地域ごとの市場特性やお客さまの課題を共有しながら、設備導入後も継続的に連携し、充実したサポートや課題解決提案を協働して行っています。



毎年、春に開催される新東会総会

研究開発 「仲間」との共創が生み出す新たな価値

当社では、経営理念「HEART」のもと、信頼される技術を核とした新たな価値創造に取り組んでいます。その一例として、仲間であるExentis社との共創による、3Dプリンティング技術による新しいモノづくりに注力しています。右の写真のサンプルに示すように、非常に精密な形状の3D成形が可能で、これまで当社で培った素材材加工技術と融合することで、3Dプリンタでの量産が可能になります。当社はExentis社との取り組みに限らず、レーザー事業においてはLASERAX社などの協業を積極的に推進しており、仲間との共創を通じて、従来にない付加価値を創出しています。



Exentis社製3Dプリンタによる金属サンプル

「仲間」パートナー企業との協業の事例紹介 形づくり領域 P.33 表面づくり領域 P.35

生産 仲間とともに築く進化するモノづくり

当社は、モノづくりの現場において、仲間との協働による継続的な改善活動を大切にしています。社内では、部門横断で生産性向上や品質向上に向けた改善活動を推進しています。また、当社が所属するNPS研究会※の会員会社とも長年にわたり交流を続けており、互いの改善事例やノウハウを学び合うとともに、会員会社の現場とともに改善活動に取り組むことで、現場力の向上につなげています。さらに、調達品の取引先で構成される「新睦会」や、工事協力会社で構成される「新工会」など、協力会社とのネットワークも大切な仲間と位置付けています。こうしたネットワークを通じて、社外のパートナーとも連携しながら、安定生産を支える体制づくりと、より良いモノづくりと競争力強化に取り組んでいます。



改善活動の様子

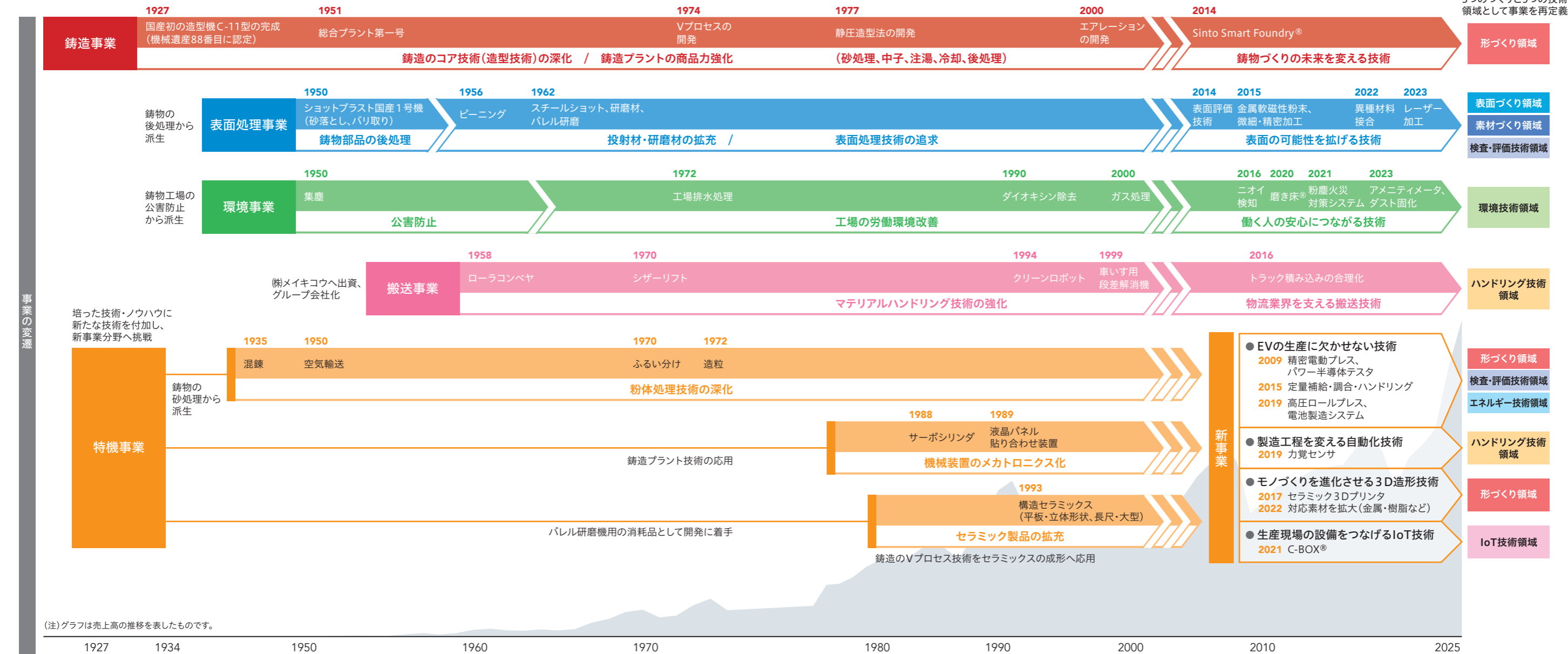
※トヨタ生産方式を源流とする改善思想に基づき、企業間で相互に学び合うモノづくりの研究会

歩み

当社の創立は1934年、その前身は1923年に創業者である久保田長太郎が始めた「久保田鋳造所」に遡ります。久保田長太郎は、前職である豊田式織機株式会社において、豊田佐吉氏の薫陶を受け、鋳物工場の機械化に取り組みました。1927年には、国産第1号の造型機である、C-11型モールドイングマシンを完成させ、当社は鋳造機械メーカーとして第1歩を歩み始めました。

その後、事業領域を拡大し、表面処理、環境、特機、関連事業を展開し、現在に至っています。今後は、事業を「素材づくり領域」「形づくり領域」「表面づくり領域」と、それを支える「5つの技術領域」として再定義し、事業領域「素材に形をいのちを」のさらなる拡大に取り組んでいきます。既存事業の強化とともに新規事業を創出・育成し、成長が期待される分野への展開と社会課題の解決を進めていきます。

事業領域
「素材に形をいのちを」
3つのつくりと5つの技術領域として事業を再定義



1934年～1945年 新東工業グループの創業 | 1946年～1973年 鋳造技術の深化と事業の多角化 | 1974年～1990年 企業基盤の整備と海外展開 | 1991年～2005年 成長に向けた企業体質の強化 | 2006年～2017年 グローバル連結体制の強化 | 2018年～ 持続可能な社会の実現に向けて

新東工業の歩み
 豊田自動織機製作所で豊田佐吉氏の薫陶を受けた久保田長太郎がモールドイングマシン(造型機)の開発に着手し、国産第一号の造型機を製作しました。その後、鋳造機械製造の技術開発を進め、1934年に新東工業の前身である久保田製作所を設立したのが当社の原点です。日本の鋳造技術の向上と鋳造設備の国産化に尽力し、日本の近代化を支えました。

戦後の混乱期を乗り越え、さらなる発展に向け、造型機単体だけではなく鋳物の製造工程全体をカバーする鋳造プラントの開発を推進しました。この間、表面処理、環境、搬送分野へ事業の多角化を進めるとともに、米国ホイールアプレーター社との提携により技術力の向上が加速しました。創立25周年(1960年)には、次の成長に向けた転換期と捉え、「新東工業」へと社名を変更しています。


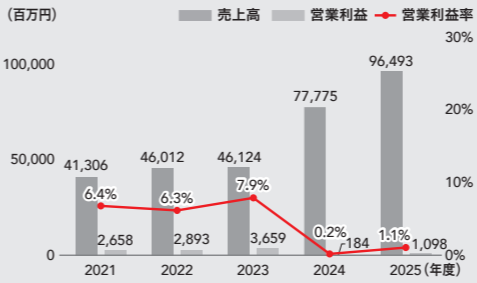
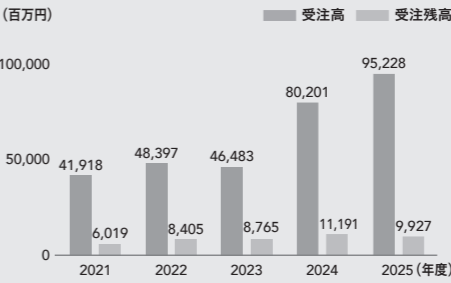
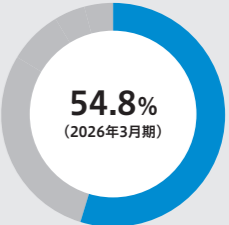

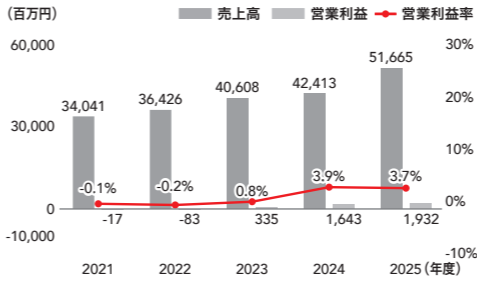
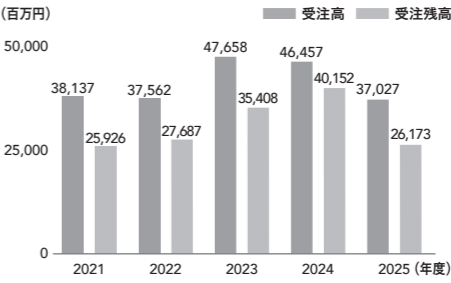
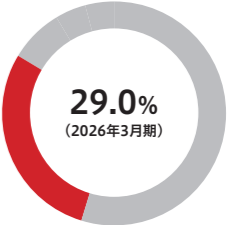
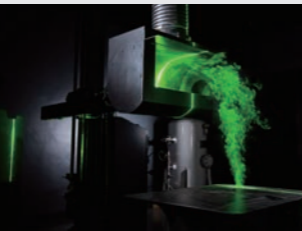
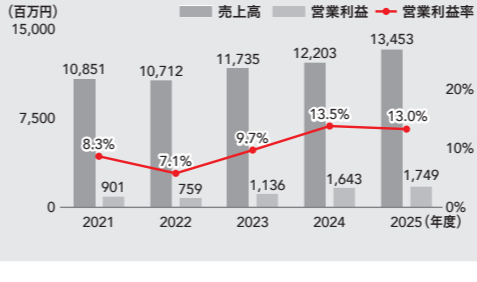
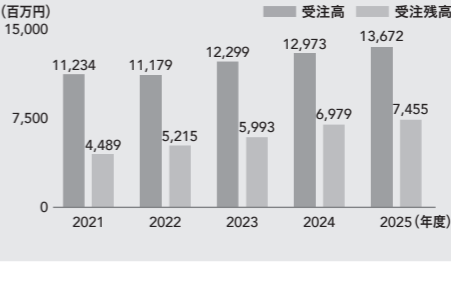
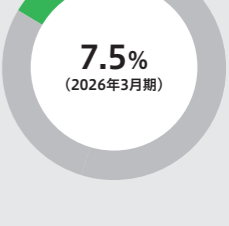

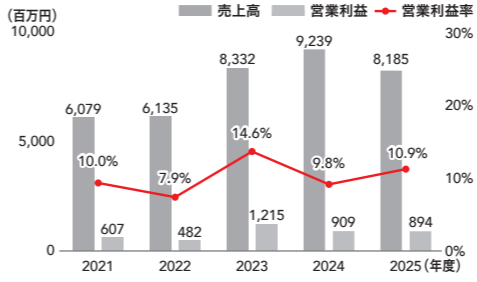
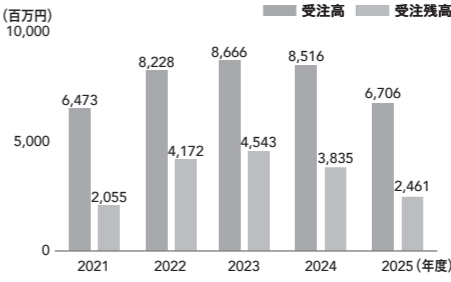
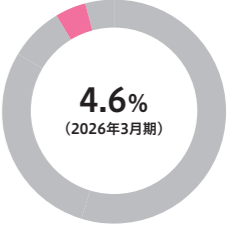

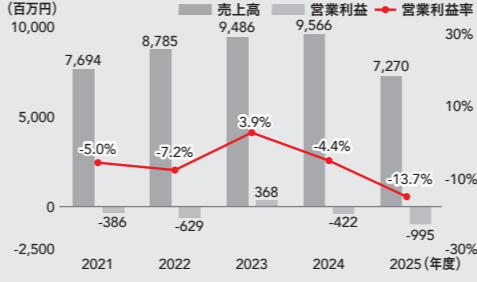
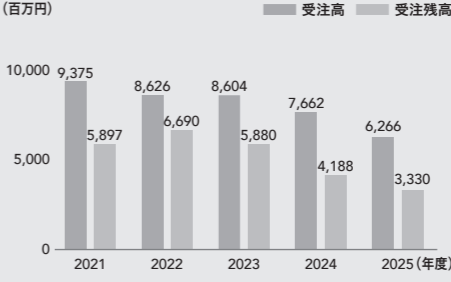

「総合エンジニアリング体制」「国際的企業への飛躍」を旗印に企業基盤の充実を図りました。鋳造では「Vプロセス」「静圧造型法」などの画期的な技術の開発により世界の注目を集めることとなりました。そして、台湾を皮切りに欧州、北米、南米、東南アジアと海外拠点を整備し、現在のグローバル基盤の礎を築きました。

事業環境が大きく変化する中、進化し続ける組織作りに向けた企業体質の強化に加え、米・欧・アジアの世界3極体制を確立し、海外への技術移転を積極的に進めました。また経営の多角化として新しい事業分野を開拓し、「新東Vセラックス」など新会社を相次いで創出、および社内ベンチャーとしてメカトロ、精密関連などの独立採算を進めるとともに、新たな収益源として設備メンテナンス・アフターサービス事業を強化・充実を図り、利益体質を確立する3魅一体のビジネスモデルを構築しました。

人財に関する独自の考え方「活人主義」を打ち出し、人財の育成と活性化を強力に推進してきました。また、新東工業グループとしての連結体制強化に向け、国内外のグループ会社を再編、コンプライアンス、リスク管理を含むガバナンス体制を強化しました。特に海外においては、現地経営体制の整備・強化を図るとともに、成長が見込まれる国・地域においてM&Aや拠点開設を積極的に進め、グローバル展開の基盤を拡充。さらに、時代の変化が徐々に激しくなる中、社会のニーズに即応し、EV、ロボットなど新分野の技術開発に着手してきました。

2034年の創業100周年に向け、社会に認められ必要とされる企業として、SDGs達成、カーボンニュートラル実現など持続可能な社会の実現に貢献していきます。海外展開においては、グループ方針に基づき、各国のグループ会社がそれぞれの地域における将来を見据えた経営を行えるよう体制の強化を進めていきます。さらに、社会のニーズに応えられるよう、今まで培った技術の応用、および新しいものとの意外性のあるコラボレーションにより、新たな価値を創造することで、企業価値の向上につなげていきます。

事業概況

事業領域	該当する旧セグメント	事業内容	主な製品	売上高・営業利益 ^{※1}	受注高・受注残高 ^{※2}	事業別売上構成比 ^{※2}
表面づくり領域	表面処理事業	<p>鋳物の後処理から派生し、金属球を投射して製品表面を加工するプラスト装置や、その投射材・研磨材を提供しています。現在は、レーザー工法など新たな加工技術に取り組み、表面に機能を与える「表面づくり」へと発展させています。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ● ショットプラスト装置 ● ショットピーニング装置 ● 投射材・研磨材 ● レーザー加工装置 			 <p>54.8% (2026年3月期)</p>
形づくり領域	鋳造事業 特機事業 (セラミック関連)	<p>1927年に国産第一号の造型機を完成させて以来、独自の技術により、鋳造設備のトップメーカーとして鋳造業界をリードしています。今後は、3Dプリンティング技術の活用などにより、セラミックスをはじめとした多様な材質への対応を進め、「形づくり」の領域を拡大していきます。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ● 造型システム ● 砂処理システム ● 注湯システム ● セラミック関連 			 <p>29.0% (2026年3月期)</p>
環境技術領域	環境事業	<p>鋳物工場の公害防止から派生し、集塵やガス処理、水処理などの分野で環境を改善する製品を提供しています。さらに、世の中のニーズの変化に対応し、火災対策や作業環境の見える化に関するご提案を強化し、働く人の安全と健康、快適な作業環境の実現に貢献しています。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ● 集塵機 ● 排ガス浄化装置 ● 排水処理装置 ● 磨き床[®]施工 			 <p>7.5% (2026年3月期)</p>
ハンドリング技術領域	搬送事業 特機事業 (力覚センサ関連)	<p>搬送関連製品の提供により、人手不足が深刻化するトラック輸送や介護・福祉分野といった社会課題への対応に加え、EC物流の拡大などを背景に、様々な分野で活躍しています。今後は、精密作業の自動化を実現する力覚センサの展開も強化し、領域をさらに拡大していきます。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ● シンザリーフト ● コンベヤ ● ハンドリング・搬送システム ● 力覚センサ 			 <p>4.6% (2026年3月期)</p>
支援技術領域	特機事業	<p>電動シリンダをはじめとする省エネ機器や、電気特性検査装置、IoT関連製品など、多岐にわたる製品を提供しています。成長市場へのさらなる深耕を進めるとともに、モノづくりを支える技術として、省エネ化や生産性向上などの社会課題の解決にも貢献しています。</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ● 電動シリンダ ● 高圧ロールプレス ● 電気特性検査装置 ● IoT関連製品 			 <p>4.0% (2026年3月期)</p>

※1：事業間取引の相殺消去前の数値 ※2：事業間取引の相殺消去後の数値